

報道関係者 各位

平成22年2月18日
厚生労働省健康局結核感染症課
照会先:江浪
(電話)
代表 03-5253-1111
(内線 2373)
直通 03-3595-2257

ポリオ(急性灰白髄炎)ワクチン関連の健康障害について

平成22年2月17日、兵庫県神戸市より、ポリオ(急性灰白髄炎)ワクチン関連の健康障害について、別添の通り情報提供がございましたので、お知らせいたします。

なお、患者の個人情報については、特段のご配慮をお願いいたします。

ポリオ（急性灰白髄炎）ワクチン関連の健康障害事例について

神戸市内における、ポリオ（急性灰白髄炎）ワクチン関連の健康障害事例についてお知らせします。

なお、報道に際しては、ご本人やご家族のプライバシーに十分配慮していただくとともに、ご家族ならびに医療機関への取材についてはご遠慮いただくようお願いいたします。

1. 患者概要

神戸市在住の 9 か月児（男児）

2. 経過

平成 21 年 12 月 28 日	発熱（38.5 度）
平成 22 年 1 月 1 日	受診（感冒の診断、解熱）
平成 22 年 1 月 4 日	つかまり立ちができなくなる
平成 22 年 1 月 5 日	母親が、はいはいする時に下半身が動いていないことに気づく
平成 22 年 1 月 7 日～1 月 17 日	筋緊張低下と下肢の麻痺のため入院
平成 22 年 1 月 21 日	受診（検査のため）
平成 22 年 1 月 27 日～2 月 2 日	入院（治療のため）
平成 22 年 2 月 5 日	この間に病院から保健所に相談がある 検便の結果、ポリオウイルスⅡ型と同定 ポリオ（急性灰白髄炎）と診断
平成 22 年 2 月 17 日	神戸市環境保健研究所において分離されたウイルスを、国立感染症研究所において「ワクチン株」か「野生株」かを精査した結果、Ⅱ型ワクチン株と同定

3. ポリオワクチン接種歴

なし

（平成 21 年 11 月のポリオワクチン集団接種は体調不良のため未接種）

4. 現症状

全身状態は良好で右下肢の麻痺は改善したが、左下肢の麻痺は現在も残っている。

5. その他

本件はポリオ生ワクチン接種時に体調不良のためにワクチン接種を受けることができなかった児が、ワクチン由来のポリオウイルスに感染した極めてまれな事例です。

患者さんとの濃厚接触があったと思われる方々の中で、体調不良の方は見つかっていないことから、周辺への感染拡大の危険性はないと考えられますが、引き続き健康状態の確認を行っていきます。

ポリオは、ワクチンで防ぐことができる病気です。ポリオワクチン接種は、安全で有効なポリオの感染予防対策として全世界で行われています。今後も、ポリオワクチン接種を引き続き進めて参りますが、まだポリオワクチンを受けていच्छゃらない方は、接種をされることをお勧めします。

◆ ポリオ（急性灰白髄炎）について

ポリオはポリオウイルスに感染して起こる病気です。ポリオウイルスに感染しても、多くの場合、病気としての明らかな症状はあらわれずに、知らない間に免疫（その後、ポリオに感染しない抵抗力）ができます。しかし、ウイルスが脊髄の一部に入り込み、主に手や足に麻痺があらわれることがあり、多くの場合、その麻痺は一生残ります。成人が感染することもあります。1～2歳の子どもがかかることが多かったため、かつてはポリオのことを「脊髄性小児麻痺（略して「小児マヒ」）とも呼んでいました。

（症 状）

ポリオウイルスに感染しても90～95%は、感染後も無症状で終わります。4～8%はカゼのような症状（発汗、下痢、便秘、悪心、嘔吐などの胃腸症状や咽頭痛、咳などの呼吸器症状など）にとどまります。感染者の0.1%に麻痺症状が現れます（麻痺型ポリオ）。

麻痺型ポリオでは、1～2日のカゼ症状の後、解熱に前後して急性のだらんとした麻痺が起こります。麻痺は下肢に起きることが多いです。

麻痺型ポリオの約50%が筋拘縮や運動障害などの永続的後遺症を残します。その他、嚥下障害や発語障害、呼吸障害が現れることがあります。死亡例のほとんどは急性呼吸不全によるもので、死亡率は麻痺型となった小児の約4%です。

（日本の現状）

日本では、1960年代にポリオ生ワクチン接種が始まり、1970年代には麻痺患者はほとんど見られなくなり、1980年（昭和55年）の1例を最後にポリオの自然感染（野生株のポリオウイルスによる感染）による患者発生はありません。

ポリオワクチンは、安全性と有効性が広く認められており、世界の多くの国で使われていますが、病原性を極度に弱めた生きたウイルスを使っているため、ワクチン接種を受けた（飲んだ）後、ワクチンを受けた人や周囲の人にポリオにかかった時と同じように手足に麻痺が極めてまれ（数百万回に一回）に現れることがあります。

ポリオワクチンは腸管内で増殖し便から排泄されることから地域内一斉接種として、春と秋各々1ヶ月間に接種を実施しています。生後3ヶ月以上18ヶ月までを標準接種期間として、41日をあけて2回接種します。90ヶ月未満まで接種は可能ですが、体調の良いときに早めに済ませることをお勧めしています。

(世界の現状)

WHO は、1988年4月に「ポリオ根絶計画」を発表しました。当時ポリオの常在国は1988年には125カ国でしたが、2009年7月現在には4カ国（アフガニスタン、インド、ナイジェリア、パキスタン）に絞られています。

しかし、南アジア、アフリカの一部では現在も常在国からの輸入例なども含めて、依然として（自然感染による）ポリオが発生しており、2009年の世界の患者数は、768名となっています。

【患者数】2007年（平成19年） 1,310名（常在国の4カ国で1,204名、非常在国で106名）

2008年（平成20年） 1,651名（常在国の4カ国で1,505名、非常在国で146名）

2009年（平成21年） 768名（常在国の4カ国で 566名、非常在国で202名）

出典：日本細菌製剤協会発行『予防接種に関するQ&A』など